【事業名】館林市教育施設クビアカツヤカミキリ対策事業
（群馬県館林市）　【団体名】館林市

令和２年度　生物多様性
保全推進支援事業
実績報告書別紙10－６

事業の背景・目的

サクラ等の樹木に食入・加害することで衰弱させ、生態系に甚大な被害を及ぼし、広域に渡り拡散する恐れのある特定外来生物クビアカツヤカミキリ対策として、ネット巻きや薬剤による防除が困難な被害木の伐倒を行い、館林市教育施設におけるクビアカツヤカミキリの防除を推進する。

事業の内容

事業①　被害木の伐倒事業
以下の条件を満たす被害木について、施設管理者が確認を行った上伐倒を行う。
・複数の侵入孔からフラスが排出されている。
・手が届かない高さからフラスが排出されている。
・枝からフラスが排出されている。
初期の被害木については成虫の脱出防止のネット巻きや、樹幹注入剤による防除を行う。

事業②　**普及啓発事業**
クビアカツヤカミキリの監視は行政のみでは難しいため、クビアカツヤカミキリやそれが及ぼす被害などの情報、対策の状況等をホームページや広報誌などを通じ市民に積極的に配信し、対策の普及啓発を行う。

得られた成果

令和元年度から２年度の間に、館林市教育施設の被害木15本の伐採を実施した。
小・中学校及び幼稚園にあるサクラは、児童生徒に安らぎを与えたり、学校のシンボルになっているが、クビアカツヤカミキリの食害により落枝や倒木による事故が生じる危険性があり、被害木を伐採したことにより、事故を未然に防ぎ、安全安心な教育環境の整備が図れた。
今後も、ネット巻きや薬剤による防除が困難な被害木の伐倒を行い、外来種であるクビアカツヤカミキリの拡散を防止する取組を継続して行う。
クビアカツヤカミキリ対策の普及啓発のために行った駆除奨励金制度の実施により、市民による捕殺数は令和元年度6,648匹、令和２年度6,249匹と多数に上り、市民のクビアカツヤカミキリ対策への関心の高さがうかがえる。
邑楽館林地域クビアカツヤカミキリ協議会が実施し、フラス排出が無くなる等有効性が認められた、薬剤樹幹注入による防除を、教育委員会及び学校施設職員が実施した。施設職員が自ら防除を行うことにより、防除方法の普及と啓発を図る事ができた。また専門家の意見を取り入れ、視認性に優れ成虫の発見が容易な黒色ネット巻きによる防除を実施した。